

19 不測時に備えた食料供給体制強化対策

令和 8 年度予算概算決定額 45 百万円（前年度 63 百万円）  
〔令和 7 年度補正予算額 360 百万円〕

＜対策のポイント＞  
食料供給困難事態対策法に基づく特定食料・特定資材の民間在庫の実態等に関する調査、不測時における食料自給力シミュレーションモデルの構築、世界の食料需給動向等の総合調査・分析等を実施します。

＜事業目標＞  
不測時に備えた食料の安定的な供給の確保

＜事業の内容＞

1. 総合的な備蓄体制の推進に向けた民間在庫調査  
【令和 7 年度補正予算額】260 百万円  
不測の事態において、備蓄を効果的・効率的に活用していくため、国内に存在する備蓄をトータルで把握し、官民合わせた総合的な備蓄体制を推進します。これに向け、食料供給困難事態対策法に基づく特定食料・特定資材※について、サプライチェーンの各段階における民間在庫の実態等に関する調査を行うとともに、これらを定期的に把握するための、より効率的な調査手法を検討します。  
※特定食料：小麦・大豆・植物油等、特定資材：肥料・農薬等 を想定

2. 不測時における食料自給力シミュレーションモデルの構築  
【令和 7 年度補正予算額】60 百万円  
不測の事態の判断を行い、必要な対策を検討するため、諸外国の事例を参考とし、国内の農地や労働力をはじめとする生産基盤の確保状況、特定食料等の備蓄状況、国際価格を踏まえた世界の需給動向等を考慮し、品目ごとの食料供給状況や作付構成を最適化する我が国の食料自給力シミュレーションモデルの構築を検討します。

3. 世界食料需給動向等総合調査・分析事業等 45 百万円（前年度 63 百万円）  
【令和 7 年度補正予算額】40 百万円  
食料の供給不足となる兆候を適切に察知するため、現地コンサルタント等を活用し、主要輸出国における食料の生産動向等や、異常気象及び地政学的リスクについて情報収集・分析を実施します。  
（関連事業）  
農業気象情報衛星モニタリングシステム（デジタル庁計上）16 百万円（前年度 15 百万円）



＜事業イメージ＞

1. 総合的な備蓄体制の推進に向けた民間在庫調査

品目毎の在庫量や保管場所、流通経路等の把握  
効率的な調査手法の検討  
(サプライチェーンと在庫のイメージ)

サプライチェーンの各段階において、多様な形態での在庫が存在し、その実態は品目毎に異なる。

① 民間業者へのアンケート調査等  
② 定期的な調査のためのより効率的な手法の検討

2. 不測時における食料自給力シミュレーションモデルの構築

国際価格の高騰、輸入量が減少するデータを入力

在庫調査により把握した品目ごとの備蓄量データを入力

不測の事態を想定したシミュレーションを実施

- 世界の需給動向を反映した国内の食料供給状況を算出
- 食料供給状況に対応した作付面積構成を算出

シミュレーション後の食料供給状況  
【○○○kcal/人・日】

農地面積  
【○○○万ha】

① 海外の食料需給情報、異常気象・地政学的リスクの発生に係る情報の収集・把握

② 穀物等の需給動向、海上輸送に及ぼすリスクを分析・予測

③ 海外からの安定的な原料調達を目的に情報発信するとともに食料の供給不足となる兆候を適切に察知

農業気象情報衛星モニタリングシステム  
現地圃場の作物

穀物等の国際価格の動向

【お問い合わせ先】 大臣官房政策課食料安全保障室（03-6744-2395）